

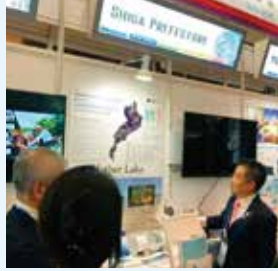
7月1日はびわ湖の日

世界へと広がる水のつながり

滋賀県で受け継がれてきた琵琶湖を大切に作る暮らしは、持続可能な社会の実現に向けたローカルSDGsモデルです。いま滋賀県では湖沼の重要性を世界に発信し、「世界湖沼デー」の制定を呼びかけています。琵琶湖と滋賀県の「水」のつながりは、世界に広がっています。

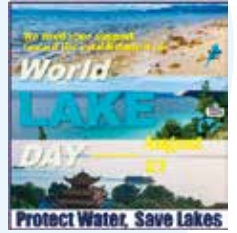
「世界湖沼デー」の制定に向けて

今年5月にインドネシア・バリ島で開催された「第10回世界水フォーラム」において、滋賀県は「世界湖沼デー」の制定を呼びかけるとともに、パビリオン内のブースで滋賀県の環境保全の取組について世界に向けて発信しました！



世界につながる琵琶湖の水

「湖」が取り持つ縁によって滋賀県が姉妹・友好協定を締結している3つの州省、ミシガン州(アメリカ)、湖南省(中国)、リオ・グランデ・ド・スール州(ブラジル)も、「世界湖沼デー」の趣旨に賛同しています。滋賀県では、さらに「世界湖沼デー」に賛同する世界の地域とネットワークをつくり、湖沼保全活動の活性化に取り組んでいきます！



姉妹・友好州省と連携した「世界湖沼デー」制定を呼びかけるポスター

「第10回世界水フォーラム」について詳しくは、15ページの「みんなでプラスワン」をご覧ください！

滋賀県の取組

過去

赤潮(1977年)

琵琶湖で初めて大規模な「淡水赤潮」が発生。

石けん運動

赤潮の原因の一つである「リン」の排出抑制に向け、「石けん運動」が始まる。

琵琶湖条例(1980年)

石けん運動をきっかけに、「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」を施行。

「びわ湖の日」制定(1981年)

条例の施行日である7月1日を「びわ湖の日」とする。

第1回世界湖沼会議(1984年)

滋賀県の提唱により大津市で開催。

現在

CO₂ネットゼロ

温室効果ガス(CO₂など)排出量の削減だけでなく、地域や産業の持続的な発展に向けた「CO₂ネットゼロ社会」を実現するための取組

「しがCO₂ネットゼロムーブメント」
詳しくはこちら！



サーキュラーエコノミー

資源やエネルギーを無駄にしない、循環型の社会・経済システムの構築を目指すための取組

「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」詳しくはこちら！



ネイチャーポジティブ

生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せるための取組

「生物多様性しが戦略2024」
詳しくはこちら！



未来

びわ湖とつながる びわ湖と生きる

森・川・里・湖がつながる豊かな滋賀の環境を次世代に引き継いでいけるよう、今後も県民や企業、行政などの多様な主体が力を合わせていく必要があります。

「世界湖沼デー」制定の動き

安定して淡水を供給し水辺環境を形成する湖沼は、生き物の生存にとって大変重要であり、その持続的な管理に向けて、世界の人々の意識を高め、行動につなげていく必要があります。

大阪・関西万博を契機に世界へ更なる発信を！

2025年4月から開催される「大阪・関西万博」。

滋賀県では、「Mother Lake ～びわ湖とともに脈々と～」をテーマに、万博会場において琵琶湖の美しさや持続可能な「いとなみ」を伝えるブース出展、滋賀の魅力を体感していただけるステージ、ワークショップなどを展開します。

大阪・関西万博を契機に、各地からの来場者を滋賀へいざなうとともに、「水」のつながりを滋賀県から広げていきます！



滋賀県ブースのイメージ(メインショー)